

第1回オオムギ資源開発研究セミナー

～オオムギ研究開発のフィードバックネットワーク形成を目指して～

食の未来を担う健康機能性食品としてオオムギが注目されています。そのポテンシャルをさらに引き出すためには、生産、加工、機能性開発、そして新品種の育成、それぞれの研究が切れ目なくつながる必要があります。近年急速に発展しているゲノム編集技術をはじめとした新たな育種技術が加われば、ニーズに合った特性を持つ品種を今まで以上に早く消費者に届けられるようになるでしょう。本セミナーは、生産や商品開発などの現場と基礎研究との間を密接に結びつけ、情報やアイデアを相互にフィードバックできるようなネットワークを形成する目的で企画されました。

開催日: 2018年12月7日 12:50 開始

開催地: 〒790-8566 愛媛県松山市樽味3-5-7 愛媛大学農学部2階大会議室

共催: 愛媛大学農学研究科はだか麦資源開発研究グループおよび岡山大学資源植物科学研究所オオムギ遺伝子改変班

お問い合わせ: yaeno@agr.ehime-u.ac.jp (八丈野)

【プログラム】

12:50～13:00

荒木卓哉 (愛媛大学大学院農学研究科) 開会挨拶

13:00～13:30

吉岡藤治 (農研機構西日本農業研究センター)

「国産“もち麦”品種の育成と普及状況」

13:30～14:00

渡部保夫 (愛媛大学大学院農学研究科)

「はだか麦を用いたギャバ製造とはだか麦加工食品のβグルカン分子量分析」

14:00～14:30

奥山聡 (松山大学薬学部)

「はだか麦の機能性評価に適した病態モデル動物作製への取り組み」

14:30～15:00

垣原登志子 (愛媛大学大学院農学研究科)

「はだか麦の新しい活用法 ー主食プラス主菜、副菜としてー」

15:00～15:20 休憩

15:20～15:50

八丈野孝（愛媛大学大学院農学研究科）

「基礎研究と応用のニーズに基づいたオオムギ遺伝資源開発」

15:50～16:20

久野裕（岡山大学植物資源研究所）

「オオムギの遺伝子改変技術の現状と将来展望」

16:20～16:50

澤崎達也（愛媛大学プロテオサイエンスセンター）

「オオムギの ABA 受容体を標的とした ABA アゴニスト開発」

17:30～19:30

ポスター発表&情報交換会（農学部会館2階集会所）

世話人：荒木、八丈野